

【テーマ:黒船来航と貿易のはじまり】

黒船の模型、展示「横浜開港」をよく見て答えよう

これはペリー艦隊が1854年、2回目の来航で、横浜沖に集まったときの模型です。黒船は前の年に浦賀に来たときより2倍の8せきに増えています。



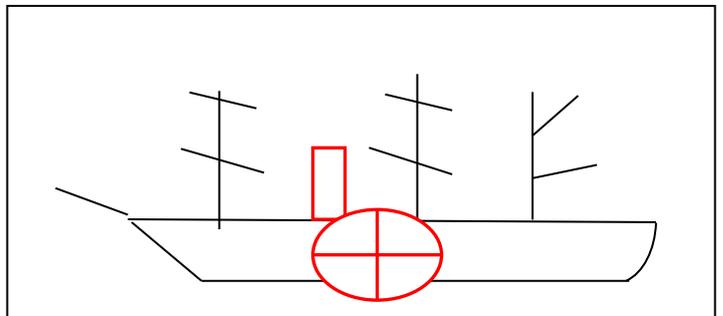
1 黒船の模型をよく見てください。8せきのうち、日本にはまだなかった蒸気のでエンジンを動かして走ることができる蒸気船は何せきですか。

3 せき

【解説】ペリーが乗船していたポーハタン、サスケハナ、ミシシッピの3隻が蒸気ので動く軍艦でした。19世紀中ごろは、帆船から蒸気船にかわる時期で、ペリーは蒸気船の建造に熱心だったので「蒸気軍艦の父」と呼ばれました。日本にはまだなかった蒸気船を見るために、横浜の周辺には多くの見物客が押し寄せました

2 それは黒船のどこを見てわかりましたか。絵のなかにかきこんでみましょう。

【解説】蒸気船には、蒸気ので回って船を進ませる外輪と、排気口である煙突がついていました



3 開国したあと、1858年に日米修好通商条約が結ばれ、貿易が始まりました。これは日本の貿易の中心地だった横浜港からの輸出品で一番多かった品物です。これは何という品物が調べてみましょう。

生糸



【解説】生糸は絹の布の原料です。明治初期には、イギリス、フランスなどヨーロッパが輸出先の中心でしたが、次第にアメリカに移っていきます

ぐんまけん とちぎけん
群馬県・栃木県など
(東北・北関東でも可)

4 この品物のおもな生産地は甲信越(今の山梨県、長野県、新潟県)のほか、どこですか。展示をよく見て答えてください。

【解説】生糸は甲信越のほか、北関東・東北でも生産されていました。特に世界遺産にも認定された、群馬県の富岡製糸場が有名です

月	日	年	組
な	ま	え	